

6章 地域別の取組

《地域別計画の概要》

内間木、北部、東部、西部、南部の 5 つの地域ごとに、それぞれの特性を生かしたみどりのまちづくりについて示しています。各地域の計画は、みどりのカルテとみどりの方針の 2 つから成り立っています。

- みどりのカルテは、市民アンケートで集まった声や、みどりの持つ役割から見た特徴をまとめています。
- みどりの方針は、主な課題を整理するとともに、これからの主な取組内容を方針図とあわせて示しています。

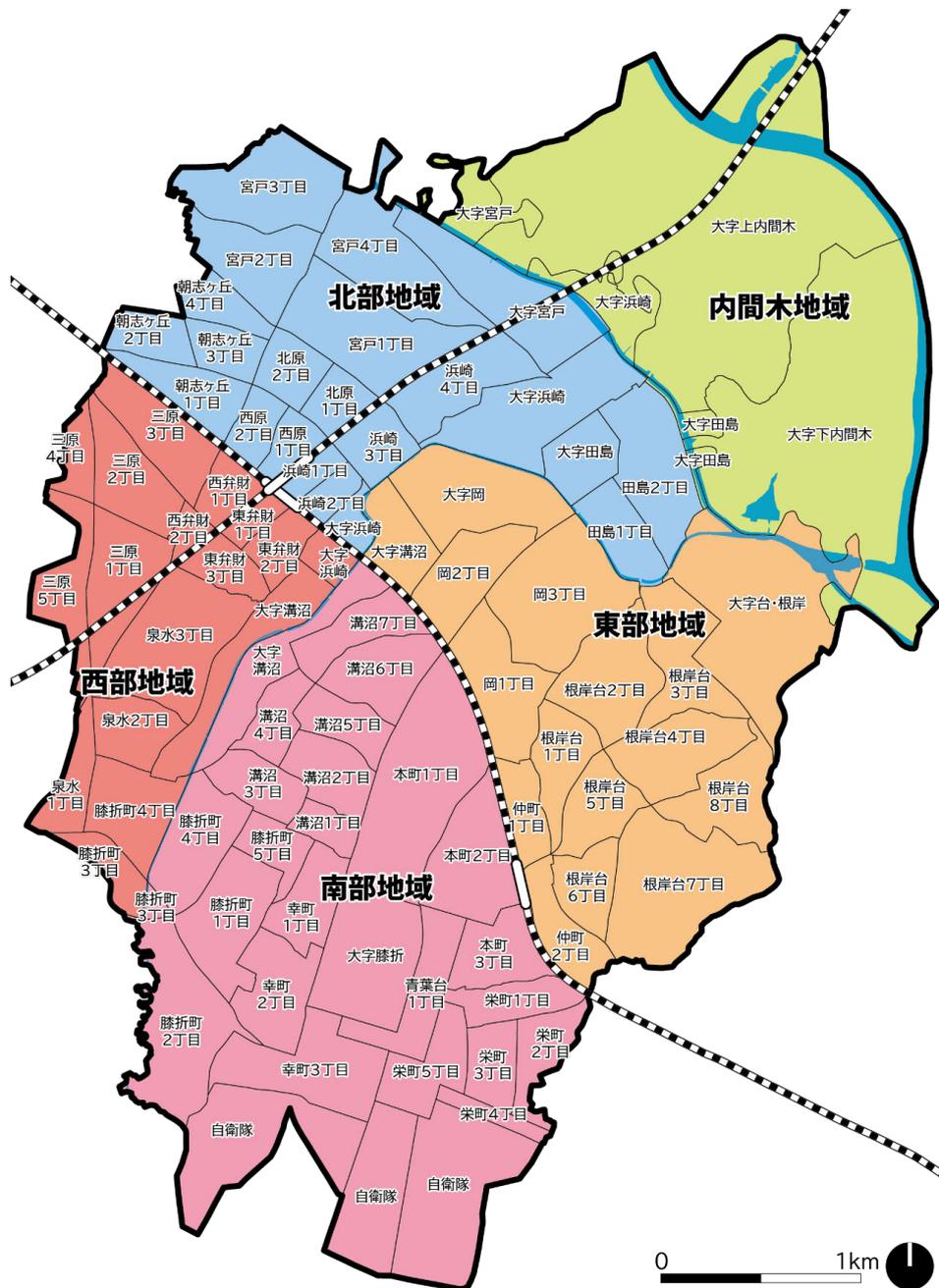


図 6-1 地域別計画の地域割り

みどりのカルテは、表 6-1 に示す構成で作成しています。また、表 6-2 に示す指標に基づき町丁目における分析結果を示しています。分析結果では、数値が大きいほど環境能が良好であると考えられる評価項目は黄緑色(■)、課題があると考えられる評価項目は桃色(■)のスケールバーで環境能の大小を示しています。

表 6-1 みどりのカルテの構成

地域名				グリーンインフラの効用別分析	効用別分析結果	
面積	人口	緑被率	地域の位置		健全な水循環を支えるみどり	都市の気温上昇を緩和するみどり
市民アンケート調査	問1	みどりに対する満足度		グリーンインフラの効用別分析	地球温暖化の緩和に貢献するみどり	生き物の生息空間となるみどり
	問2	豊か・魅力的と感じるみどり			まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	暮らしに息づく農業活動の場となるみどり
	問3	将来に残していきたいと思うみどり			健康づくりの場となるみどり	身近な遊び場となるみどり
	問4	公園利用頻度			にぎわいや交流の場となるみどり	防災拠点となるみどり
	問5	近くの公園についての評価				
	問6	みどりのまちづくりに必要な施策				
	問7	緑化活動等への参加経験				
	問10	みどりを守るための仮定の支払額				

表 6-2 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (t/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34 の生物指標を分母とした GI タイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1ha 当たりの歩道等の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径 500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における 1000 ㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積	面積の平均
防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における学校や 1000 ㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)		避難有効面積の平均

内間木地域

面積	人口	緑被率		
3.7km ²	1,309人	64.7%		
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.36 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足している	0.04 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.04 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつけられている	0.00 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	新河岸川(22件)、荒川(5件)、秋ヶ瀬(2件)			
問3 将来に残したいと思うみどり	新河岸川(6件)、荒川(3件)、秋ヶ瀬(1件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.22 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.06 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.11 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.06 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(34.4%)		【2位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(21.9%)	
	【3位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(12.5%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(6.3%)、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる(6.3%)、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる(6.3%)	
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(28.6%)		【1位】全てに参加したことがない(28.6%)	
	【3位】道路などの清掃活動(23.8%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産(9.5%)	
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥310)		【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥215)	
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥135)		【4位】まちの景観、郷土の風景を形成するみどり(¥70)	

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる み どりの 回 答 数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)
内 間 木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
	地域全体	0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	この地域は、地下水が浅い場所にあるため、雨水が地面にしみ込みにくい特徴があります。そのため、雨水を一時的に貯める場所を確保することが大切です。
都市の気温上昇を緩和するみどり	荒川や新河岸川などの水辺に囲まれており、夏に水を張る田んぼや、木陰をつくる屋敷林などがあるため、他の地域に比べて地面の温度が低くなっています。しかし近年は、物流倉庫や工場が増えており、気温が上がるヒートアイランド現象が見受けられます。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	荒川や新河岸川、朝霞調節池の広い草地のほか、田畑や屋敷林などが広がっており、二酸化炭素を吸収する大きな役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	朝霞調節池は、水面から湿地、林が連続的につながる環境を形成しており、多くの種類の生き物が暮らしています。また、川や水辺は生き物の移動ルートとしても重要で、特に朝霞調節池とその周辺は優れた自然環境です。点在する屋敷林や林も、森や草原を好む生き物たちのすみかになっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	荒川、新河岸川、朝霞調節池は、豊かで魅力的なみどりとして親しまれています。こうした水辺や田園の風景が、内間木地域らしい美しい景観をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	まとまった農地が残っており、水田や畑として利用されています。しかし、休耕地も多く見られるようになっています。
健康づくりの場となるみどり	荒川沿いには、サイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広く整備されています。新河岸川の左岸には遊歩道がありませんが、今後、新たな道路の整備にあわせて、この地域を縦断する歩道の整備が期待されています。
身近な遊び場となるみどり	現在、公園は少ない状況ですが、川沿いの広い空間や神社・お寺の境内などがあります。今後は、新たな道路の整備にあわせて内間木公園拡張整備の構想があるため、地域の中心となる公園づくりが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	内間木公園や神社・お寺の境内は、お祭りやイベントを開くための広場として活用できると考えられます。
防災拠点となるみどり	内間木公園の拡張整備において、災害時にも役立つ機能が備わることが期待されています。

内間木地域のみどりの方針

主な課題

- 《身近な公園の不足》 この地域は公園が少なく、市民アンケートでも、身近な憩いの場がほしいという声が最も多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川や新河岸川、朝霞調節池などの豊かな自然環境があります。自然を守りながら、遊び場や自然とのふれあいの場、健康づくりの場として、もっと自由に活用する工夫が求められています。
- 《田園景観の保全と活用》 休耕地が比較的多くあります。この地域ならではの田園風景や、そこに暮らす生き物たちを守りつつ、使われていない農地を活用していくことが課題となっています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い地域です。また、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《地面が覆われることによる環境への影響》 近年、工場などが増え、地面がアスファルトなどで覆われることが多くなりました。そのため、夏場の地面の温度上昇や、大雨の際に雨水が浸み込まず、一気に流れ出してしまうことへの対策が必要です。

主な取組

① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークをつくる

- a. 公園が不足している現状に対し、内間木公園拡張整備に向けた検討を進めます。住民参加のワークショップなどを通じて意見を収集し、整備に際しては地域の交流拠点や防災拠点となるように検討します。
- b. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、内間木公園など地域のみどりの拠点とのつながりを大切にし、並木道や公園など、みどりの空間を充実させるよう働きかけます。

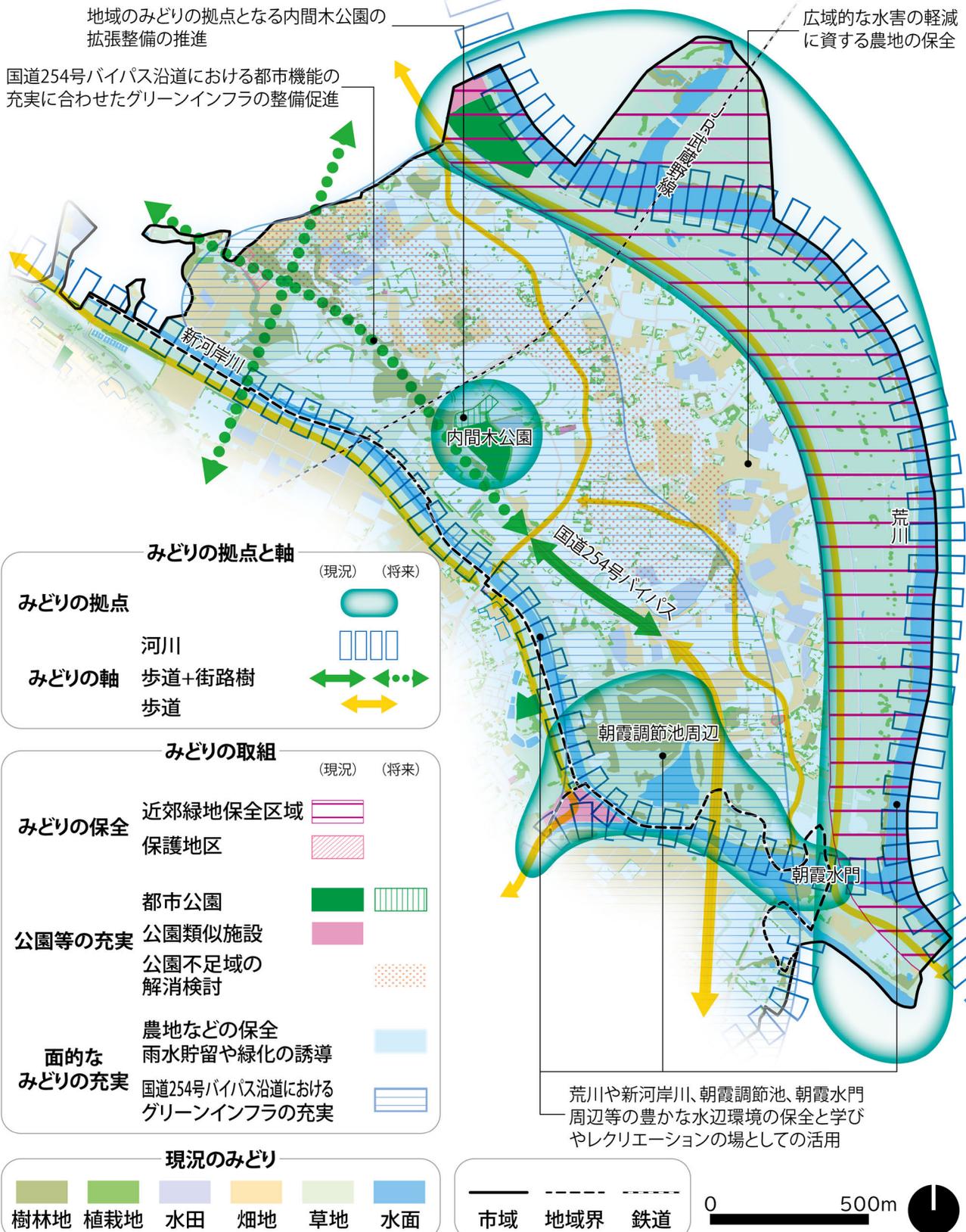
② 田園と水辺の景観を守り・生かす

- a. 農業の担い手を育てたり、農作業の支援を行ったりするとともに、農地バンクの活用を図るなど、農地が減らない取り組みを進めます。
- b. 地域の財産である田園風景や水辺の環境を守りながら、その魅力を市民の皆さんが楽しめるような活用方法を考えます。
- c. 荒川や新河岸川、朝霞調節池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら生かし、地域の方も地域外の方も楽しめる魅力的な水辺空間づくりを進めます。

③ 災害に強く、環境にやさしい地域をつくる

- a. 開発が行われる場合は雨水を貯める機能を確保してもらいつつ、田んぼや調節地など、雨水を一時的に貯める機能を生かし、水害のリスクを減らすまちづくりを考えます。
- b. バイパス整備が行われる際には、豊かな自然環境が失われることのないよう、道路区域内への緑地帯や雨水を貯める施設の設置について働きかけます。
- c. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラを生かし、環境や景観に配慮した取組が進むよう検討します。

みどりの方針図



- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて

参考資料集

北部地域

面積	人口	緑被率		
3.4km ²	30,979人	31.3%		
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足している	-0.12 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.18 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつけられている	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、新河岸川(22件)、わくわくどーむ(9件)、田島緑地(9件)、北割公園(3件)、北朝霞公園(2件)			
問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(154件)、新河岸川(6件)、わくわくどーむ(2件)、田島緑地(2件)、北割公園(2件)、北朝霞公園(2件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.04 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.39 <small>(そう思わない-1.0~1.0 と思う)</small>
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(16.5%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(15.4%)	
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(14.3%)		【4位】様々なレクリエーションを楽しめるように大きな公園を充実させる(8.1%)	
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(11.7%)		【2位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.5%)	
	【3位】道路などの清掃活動(9.2%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産(7.2%)	
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥151)		【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥151)	
	【3位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥135)		【4位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥121)	

市民アンケート調査

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の多様性 (%)	豊か・魅力 と感ずるみ どりの回 答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	137.9	-3.85	2.11	2.97	2.97
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12
大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65	
大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95	
地域全体		0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	住宅などが多いため、他の地域と比べると、雨水が地面にしみ込みにくいです。しかし、農地や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を緩和するみどり	建物や農地が多いため、全体的に地面の温度が高いです。一方で、川沿いや木々のある場所はクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	斜面林や川沿いの草地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	新河岸川と黒目川には、たくさんの種類の生き物が生息しており、農地と川が一体になって生き物のすみかを形成しています。まちなかでも、小さなみどりが生き物の暮らす場所になっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが地域のみどりとして親しまれていますが、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	宮戸から田島にかけて、まとまった農地が広がっており、まちなかにも小さな農地が点在しています。宮戸3丁目では、斜面林と一緒に水田をどのように保全していくか検討されています。
健康づくりの場となるみどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に使われており、健康づくりの大切な場所です。一方で、駅から離れた場所では、歩きやすい歩道が十分につながりません。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新しくみやど公園が整備されました。また、宮戸の緑地を遊び場として活用できる可能性があります。
にぎわいや交流の場となるみどり	まちなかには、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などを上手に生かして、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

北部地域のみどりの方針

主な課題

- 《身近な公園の不足》 人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで不足しています。市民アンケートでも、もっと公園がほしいという声が多く挙がっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くあります。駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける歩道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を和らげるためのみどりが重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園が、朝志ヶ丘や宮戸エリアでは不足しています。
- 《樹林地の保全》 貴重な自然である樹林地ですが、老木が増えたり、ナラ枯れという病気の被害が広がったりしています。樹林地を残すことに加え、将来にわたってどう手入れをしていくかが課題です。
- 《農業景観の保全》 黒目川や新河岸川の沿岸には、美しい田園風景が広がっています。これらは暮らしを支える大切な場所であり、保全が望まれます。また、宮戸の緑地周辺には、斜面の林と水田、川がセットになった貴重な風景が残されています。昔ながらの農業の風景として、守っていくことが求められます。

主な取組

① 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- a. 身近な公園が不足している地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度など、新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 遊びや交流の拠点となる公園を確保するため、(仮称)浜崎ふれあい公園の用地として取得した土地を含め、活用を検討します。
- c. 新しい道路の整備にあわせて、安全で歩くことが楽しくなるようなみどりのネットワークをつくります。
- d. 雨水を地面に浸み込ませたり、生き物のすみかになったりする、まちなかの農地を守ります。

② 黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を守り・楽しむ

- a. 公園が少ない北部地域において、黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 黒目川沿いの農地は、農業とふれあえる貴重な場所です。次の世代へ引き継いでいくため、保全活動を支援します。
- c. 新河岸川周辺の林や田園風景をひとつのまとまりとして捉え、その豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐための活動を支援します。

③ 持続可能な都市環境をつくる

- a. 駅前広場や公共空間の整備においては、人が主役のウォークアブルな空間や、交流の場づくりを進めます。
- b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- c. ナラ枯れ等の課題を抱える樹林地については、専門家の意見を取り入れながら、将来にわたって良好な状態を保てるような管理方法を考えます。

みどりの方針図



みどりの取組		(現況)	(将来)
みどりの保全	特別緑地保全地区		
	保護地区		
	生産緑地地区		
公園等の充実	都市公園		
	公園類似施設		
	公園不足域の解消検討		
	市民農園		
面的なみどりの充実	緑化推進、農地などの保全		
	雨水浸透貯留の推進		(台地面)
	農地などの保全		(低地面)
	雨水貯留や緑化の推進		
	駅周辺のウォーカブル空間の整備		

みどりの拠点と軸		(現況)	(将来)
みどりの拠点			
河川			
みどりの軸	歩道+街路樹		
	歩道		

現況のみどり					
樹林地	植栽地	水田	畑地	草地	水面



1章 計画の基本的事項
 2章 みどりの現状と課題
 3章 みどりの将来像
 4章 みどりの指針
 5章 みどりの取組
 6章 地域別の取組
 7章 計画の実現に向けて
 参考資料集

東部地域

面積	人口	緑被率				
3.6km ²	30,883人	37.3%				
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.22 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	d.お住いの近くの公園に満足している	-0.03 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.01 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	h.良いまちの景観がつけられている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、城山公園(70件)、新河岸川(22件)、越戸川(12件)、田島緑地(9件)、水久保公園(6件)、朝霞駅周辺(5件)、旧高橋家住宅(4件)、東圓寺(3件)					
問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(158件)、城山公園(85件)、根岸台の斜面林(10件)、新河岸川(6件)、柵塚古墳歴史広場(4件)、水久保公園(4件)、朝霞駅周辺(3件)、旧高橋家住宅(3件)、越戸川(3件)、根岸台自然公園(3件)					
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1回(市全体 30.9回)					
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.05 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.34 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.2%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(16.8%)			
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(13.3%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(7.4%)			
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(12.4%)		【2位】道路などの清掃活動(11.3%)			
	【3位】全てに参加したことがない(10.6%)		【4位】河川の清掃や草刈り(7.0%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)		【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥129)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥128)		【4位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥112)			

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量	雨水の 地表面 排水量	地表面 温度	炭素 固定量	生物指標 の 多様度	豊か・魅力 と 感じる み どりの 回 答数 (件)	農業活動 空間 面積率	散策路・ 歩道の 長さ	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積	イベント開 催に供する オープンス ペース面積	非水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積	水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積
		(mm/日)	(mm/日)	(℃)	(t/ha/年)	(%)	(件)	(%)	(m/ha)	(ha)	(㎡/人)	(㎡/人)	(㎡/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75
大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57	
地域全体	0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76	
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	
健全な水循環を 支えるみどり		段丘の上では家が増えています、農地などの自然も残っており、これらが混ざり合っている地域です。畑などの土がある場所は、雨水がよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。											
都市の気温上昇を 緩和するみどり		住宅が増えて地面の温度が高くなりやすい地域ですが、公園や斜面林などはクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。											
地球温暖化の緩和に 貢献するみどり		段丘の縁にある斜面林や、広く残っている農地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。											
生き物の 生息空間となる みどり		住宅が増える一方で、農地や林が点在し、いろいろな環境が混ざり合っています。そのため、多くの種類の生き物が暮らしており、生き物の移動ルートとしての役割も果たしています。											
まちの景観・ 郷土の風景を 形成するみどり		黒目川は、地域で最も魅力的なみどりとして親しまれています。ほかにも、公園や畑、並木道、里山などが、東部地域らしい美しい風景をつくっています。											
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり		岡や根岸台には、まとまった農地が広がっており、それ以外の場所にも生産緑地が点在しています。身近な場所で農業にふれることができる地域です。											
健康づくりの 場となる みどり		黒目川や公園、斜面林など、みどり豊かな環境に恵まれています。これらを結ぶ散策ルートもありますが、歩道が途切れている場所などもあり、整備が必要です。											
身近な 遊び場となる みどり		市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝霞駅の周辺で不足しています。新しい公園づくりや、今ある樹林地を遊び場として活用していくことが期待されています。											
にぎわいや 交流の場となる みどり		市街地、特に朝霞駅の周辺には、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。											
防災拠点となるみどり		災害時の拠点となるような公園が不足しています。											

グリーンインフラの効用別分析

1章 計画の基本的事項
 2章 みどりの現状と課題
 3章 みどりの将来像
 4章 みどりの指針
 5章 みどりの取組
 6章 地域別の取組
 7章 計画の実現に向けて
 参考資料集

東部地域のみどりの方針

主な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線と呼ばれる地形を構成する斜面林や畑など、東部地域ならではの景色をどう守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》 宅地化が進む中でも、みどりが持っている様々な機能を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるようなみどりのネットワークをつくることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間づくり》 多くの人が集まる朝霞駅周辺は、公園が不足しています。こどもたちの遊び場や、多世代が交流できる広場の確保が求められます。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、仲町から根岸台 1 丁目・5 丁目・6 丁目付近において不足しています。

主な取組

①景観資産を守り、まちの安全性と魅力を高める

- a. 住みよい環境をつくっている崖線の斜面林や農地などの風景を守っていくため、その大切さを共有していきます。
- b. 崖線には、豊かな自然であることを象徴する湧水が多く残っています。この湧水を守るために、台地の上では、雨水が地面にしみ込みやすくなるようにします。開発が行われる際には、雨水を一時的に貯めたり染み込ませたりする施設の設置を働きかけて湧水を守るとともに、大雨による浸水被害を減らすまちづくりを進めます。
- c. 旧高橋家住宅など、地域のみどりと一体になった歴史的な建物を守ります。また、地域の歴史や文化を感じられる散策ルートなどを充実させ、地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やします。

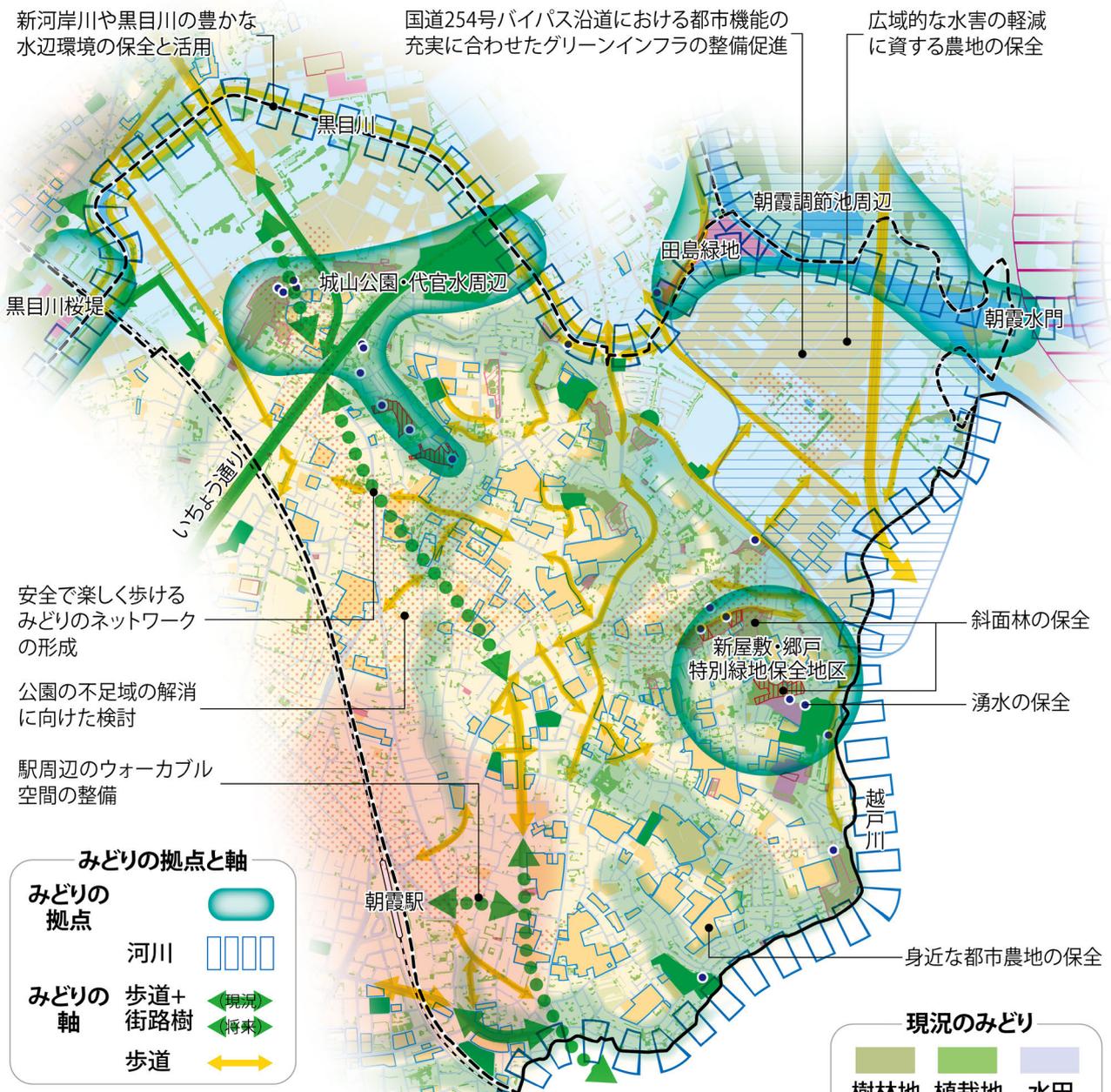
②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- a. 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度や立体都市公園制度などの新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 民間の開発と連携して、オープンスペースを確保できないか検討します。
- c. ヒートアイランド現象の緩和や、地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。

③みどりのある暮らしの実践

- a. 農地や樹林地、歴史的な建物を生かし、農業体験や自然学習など、身近な場所でみどりにふれる機会を充実させます。
- b. 地産地消や、公園管理活動への参加、自宅でのガーデニングなど、みどりを楽しむ暮らしを広げる取組を進めます。

みどりの方針図



新河岸川や黒目川の豊かな水辺環境の保全と活用

国道254号バイパス沿道における都市機能の充実に合わせたグリーンインフラの整備促進

広域的な水害の軽減に資する農地の保全

安全で楽しく歩けるみどりのネットワークの形成

公園の不足域の解消に向けた検討

駅周辺のウォークブル空間の整備

斜面林の保全

湧水の保全

身近な都市農地の保全

みどりの拠点と軸

みどりの拠点

- 河川

みどりの軸

- 歩道+街路樹 (現況)
- 歩道 (将来)

みどりの取組

みどりの保全

- 特別緑地保全地区 (現況)
- 保護地区
- 生産緑地地区

公園等の充実

- 都市公園 (現況)
- 公園類似施設 (将来)
- 公園不足域の解消検討
- 市民農園

現況のみどり

- 樹林地
- 植栽地
- 水田
- 畑地
- 草地
- 水面
- 湧水
- 地形のひだ (崖線)

面的なみどりの充実

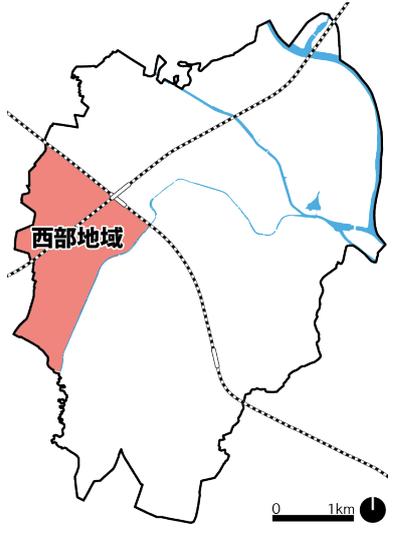
- 緑化推進、農地などの保全、雨水浸透貯留の推進 (台地面)
- 農地などの保全、雨水貯留や緑化の推進 (低地面)
- 駅周辺のウォークブル空間の整備
- 国道254号バイパス沿道におけるグリーンインフラの充実

市域 地域界 鉄道

0 500m

1章 計画の基本的事項
2章 現状と課題
3章 未来像
4章 指針
5章 取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

西部地域

面積	人口	緑被率		
2.2km ²	29,563人	18.9%		
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足している	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつけられている	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、島の上公園(7件)、南割公園(6件)			
問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(154件)、島の上公園(10件)、南割公園(7件)、朝霞台駅の木々(2件)、弁財公園(2件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.01 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.43 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.6%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(15.3%)	
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(12.4%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(9.3%)	
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(13.0%)		【2位】道路などの清掃活動(9.7%)	
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(9.3%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産(8.0%)	
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥182)		【2位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥141)	
	【3位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり(¥121)		【4位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥118)	

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量	雨水の 地表面 排水量	地表面 温度	炭素 固定量	生物指標 の 多様度	豊か・魅力 と 感じる み どりの 回 答 数 (件)	農業活動 空間 面積率	散策路・ 歩道の 長さ	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積	イベント開 催に供する オープンス ペース面積	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積
		(mm/日)	(mm/日)	(℃)	(t/ha/年)	(%)	(件)	(%)	(m/ha)	(ha)	(㎡/人)	(㎡/人)	(㎡/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02	
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	
健全な水循環を 支えるみどり		段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面にしみ込みにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。											
都市の気温上昇を 緩和するみどり		建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度が高いです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面林など木々がある場所はクールアイランドとして、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。											
地球温暖化の緩和に 貢献するみどり		建物や住宅が多いため、みどりの量が少なく、二酸化炭素を吸収するチカラが弱いです。しかし、段丘の斜面林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの農地は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。											
生き物の 生息空間となる みどり		黒目川にはたくさんの種類の生き物が生息しています。そのほかに斜面林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。											
まちの景観・ 郷土の風景を 形成するみどり		黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして最も人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。											
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり		浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。											
健康づくりの 場となる みどり		黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分に整備されていない状況です。											
身近な 遊び場となる みどり		まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に不足しており、特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを遊び場として活用していくことが期待されています。											
にぎわいや 交流の場となる みどり		イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくることや、今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。											
防災拠点となるみどり		三原では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。											

グリーンインフラの効用別分析

1章 計画の
基本的事項

2章 みどりの
現状と課題

3章 みどりの
将来像

4章 みどりの
指針

5章 みどりの
取組

6章 地域別の
取組

7章 計画の
実現に向けて

参考資料集

西部地域のみどりの方針

主な課題

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面にしみ込みにくいいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題となっています。グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケート結果においても公園に対する満足度が低く、量と質を充実させていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園がほしいという声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》 みどりの活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんが主役となってまちづくりに参加するきっかけが必要です。

主な取組

① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- a. 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- b. 公園などの公共施設において、雨水を地面にしみ込ませる機能を充実させます。また、民間事業者等が行う開発においても、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取組を進めます。

② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- a. 身近な公園が不足しているため、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度などの新しい仕組みの導入を検討しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- b. 新たな道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

- a. 公園が少ない西部地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 公園の清掃や花壇づくりなどのボランティア活動を支援し、協力して維持管理を行うふれあいの輪を広げていきます。
- c. みどりの活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

みどりの方針図



安全で楽しく歩ける
みどりのネットワーク
の形成

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて

参考資料集

南部地域

面積	人口	緑被率				
5.3km ²	53,204人	26.6%				
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.41 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	d.お住いの近くの公園に満足している	0.29 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.22 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	h.良いまちの景観がつけられている	0.34 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
問2 豊か・魅力的と感じるみどりの	黒目川(331件)、青葉台公園(116件)、シンボルロード(115件)、朝霞の森(106件)、市役所周辺(48件)、朝霞中央公園(43件)、滝の根公園(35件)、公園通り(29件)、基地跡地(15件)、朝霞駅周辺(5件)、広沢の池(3件)					
問3 将来に残したいと思うみどりの	朝霞の森(158件)、黒目川(154件)、青葉台公園(55件)、シンボルロード(42件)、基地跡地(34件)、滝の根公園(27件)、公園通り(14件)、朝霞中央公園(13件)、市役所周辺(9件)、朝霞駅周辺(3件)、広沢の池(3件)					
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9回(市全体 30.9回)					
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.37 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.51 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.8%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(14.0%)			
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(11.8%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(8.2%)			
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(14.5%)		【2位】道路などの清掃活動(10.2%)			
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.1%)		【4位】身近な生き物観察やみどりの調査(6.5%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥156)		【2位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥118)		【4位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり(¥115)			

市民アンケート調査

1章 計画の基本的事項
 2章 みどりの現状と課題
 3章 みどりの将来像
 4章 みどりの指針
 5章 みどりの取組
 6章 地域別の取組
 7章 計画の実現に向けて
 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量	雨水の 地表面 排水量	地表面 温度	炭素 固定量	生物指標 の多様度	豊か・魅力 とを感じるみ どりの回 答数 (件)	農業活動 空間 面積率	散策路・ 歩道の 長さ	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積	イベント開 催に供する オープンス ペース面積	非水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積	水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積
		(mm/日)	(mm/日)	(℃)	(t/ha/年)	(%)		(%)	(m/ha)	(ha)	(㎡/人)	(㎡/人)	(㎡/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95
	健全な水循環を支えるみどり		建物がが増えていますが、基地跡地や朝霞駐屯地、畑などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。										
都市の気温上昇を緩和するみどり		住宅が増えて地面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や朝霞駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。											
地球温暖化の緩和に貢献するみどり		まちが発展する中でも、基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林ではナラ枯れという病気の被害が増えていることが課題です。											
生き物の生息空間となるみどり		基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルートの一部として大切な役割を果たしています。											
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり		黒目川や基地跡地の周りがあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畑、並木道なども地域のみどりとして親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。											
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり		溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畑が点在しており、身近な場所で農業にふられる環境が残されています。											
健康づくりの場となるみどり		朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。											
身近な遊び場となるみどり		基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。											
にぎわいや交流の場となるみどり		朝霞の森などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などを上手に生かすことが大切です。											
防災拠点となるみどり		青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね確保できています。											

グリーンインフラの効用別分析

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

南部地域のみどりの方針

主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素を吸収する、まさに都市の肺のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くなっています。本町や溝沼では、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面に浸み込みにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さんが気軽に集まれるような広場が少なく、地域の人々のつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

主な取組

① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラの要として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な機能を守ったりします。
- b. 朝霞の森の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を共有し、未来へ引き継いでいくための取組を進めます。

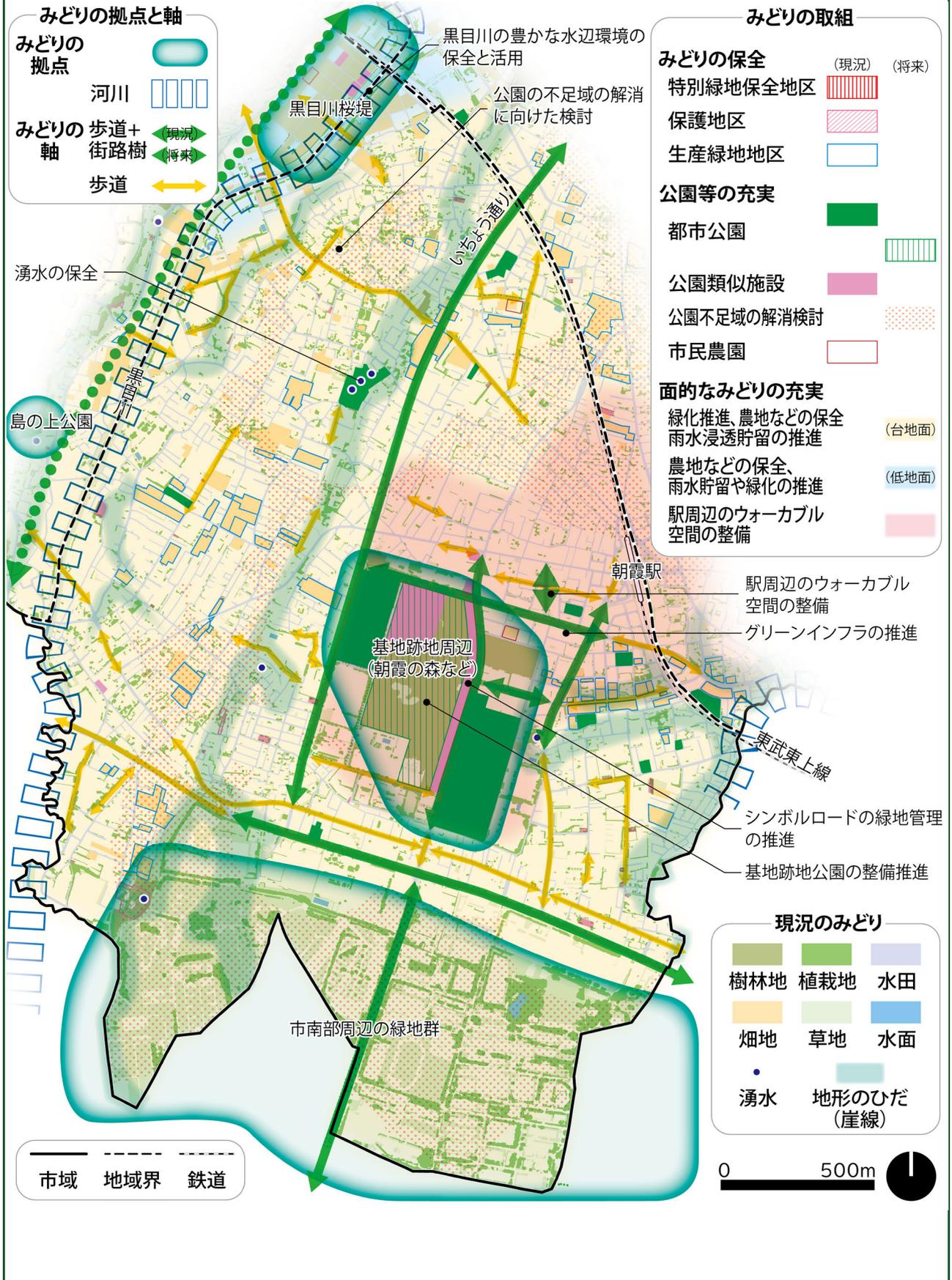
② みどりの恵みを地域全体に広げる

- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、ウォーカブルな空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みにふれられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパークなどを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

③ グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしたまちづくりを進めます。
- b. 農地や林を守るほか、民有地における緑化や、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取組を応援します。
- c. これらの取組により、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

みどりの方針図



1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

コラム

もしも台地上の農地がなくなったら、朝霞の湧水はどうなるのでしょうか。

朝霞の自然を象徴する湧水がどこから来ているのか、コンピューターシミュレーションにより地下水の流れを分析しました(参考資料編6ページ参照)。その結果、湧水のすぐ近くにある台地の地面だけでなく、数キロも離れた朝霞駐屯地や東京都練馬区のあたりに降った雨までもが、長い時間をかけて地下を通り、朝霞の湧水となって現れていることがわかりました。

農地がなくなると湧水はどうなるのか

近年の湧水調査によると、湧き出る水の量が減っている場所があります。原因は、雨水を地面にしみ込ませていた台地上の農地などのみどりが減ったことだと考えられています。

もし市内の農地がすべて建物やアスファルトに変わったらどうなるか。シミュレーションでは、農地が集中するエリアを中心に、地下水の水位が下がり、湧き出す水の量も減るという予測が出ました。

- 湧き出す水の量は、代官水などの周辺で、一日におよそ最大 20 m³ 減る可能性
- 川に流れ込む水の量は、黒目川の末端付近で、一日におよそ最大 690m³ 減る可能性

雨が少ない時期にこうした影響が重なると、湧水が完全に枯渇しまう恐れも否定できません。湧水に由来する水辺や湿地に暮らす生きものたちにも深刻な影響を与えられそうです。

湧水を支える農地の大切な役割

分析結果から見てきたのは、台地上の農地が湧水を維持するために重要な役割を果たしているという事実です。農地は降った雨を一時的に蓄え、ゆっくり地下へしみ込ませる機能を持っています。いわば、湧水の起源そのものといえる場所なのです。

まち全体で雨水をしみ込ませる工夫を

朝霞の財産である湧水を守るためには、台地上の農地などみどりを守っていく必要があります。それと同時に、まち全体を雨水をゆっくりしみ込ませるスポンジのようにしていく工夫が求められます。

たとえば、雨庭をつくったり、雨水浸透ますや雨水を貯めるタンクを設置したり、地面を水が通る舗装にしたりすることです。このように雨水をゆっくり大地にしみ込ませることは、湧水を育むだけでなく、大雨の時に一気に水があふれ出す水害を防ぐことにも貢献します。

湧水を守る取り組みは、災害に強い安全なまちづくりにもつながっているのです。